

精神保健サービス実践ガイド

G・ソニクロフト／M・タランセラ著 岡崎祐士，笠井清登，福田正人（監修，翻訳）

日本評論社 税込み 3,990円

英国・イタリアの精神医療改革の第一人者による

地域ケア向上のための具体的戦略を示す画期的な書。

病院中心のサービスモデルは失敗した！

コミュニティから始まる未来型精神保健のかたち、病院から地域へ！

私たちの住む日本は、経済的には先進国です。そうであるにもかかわらず、本書 31 ページにも紹介されているように、精神病床数が諸外国に比べて圧倒的に多く、コミュニティケアのサービス・システムは、ほぼ皆無です。

それどころか、サラチェノさんの序文にもあるように、「新たな施設化の巧妙な台頭」の危険すらある状況です。

なぜコミュニティで暮らすことが、人が最も幸福だといえるのでしょうか？

これを深く考えないと、収容型施設を近代的で快適なものに整備すればよいといった主張、あるいは逆に、コミュニティで生活している人を精神医学的に支援することは、社会に暮らす人に疾患というレッテルを貼ることになるとする、反精神医学の再台頭を招きかねません。このことを考えるうえで、ヒューマニズム、現場の経験知、科学的根拠という三原則のいずれをも尊重することが大切になることが強調されています。

第1章 はじめに地図を準備しよう

第2章 公衆衛生とコミュニティ・ケア

第3章 精神保健のあゆみ

第4章 精神保健サービスのための倫理原則

第5章 精神保健サービスのための科学的根拠

第6章 精神保健サービスのための経験知について

第7章 空間軸：国レベル

第8章 空間軸：地域レベル

第9章 空間軸：個人レベル

第10章 時間軸：準備段階

第11章 時間軸：実行段階

第12章 時間軸：評価段階

第13章 スタッフが果たすべき役割

第14章 さあ行動にとりかかろう

